



HOA BINH レポート

JVPF 内閣府認証 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議(日越友好連)
NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079
c/o. IFCC.#405, TsujiBLD,333, Yamabuki-cho, shinjuku-ku, Tokyo, Japan TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079
http://ifcc1985.com info@ifcc1985.com



会費/正会員:(個人)5,000円 (団体)50,000円 口座名/日本ベトナム平和友好連絡会議
◎郵便振替 00110-2-188872 ◎三菱東京UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキョウ)店(当座)0188872

各地で根付く友好の絆 第4回通常総会開催

五月二一日(土) NPO・JVPFの第四回通常総会がルポール麹町で開催されました。総会は、大西理事長を議長に選出し、提案された二〇一〇年度事業報告、二〇一一年度事業計画、二〇一〇年度事業会計収支実績および二〇一一年度事業会計収支計画が満場一致で採択されました。

議案審議では「クチアン省での奨学金が三期目を迎え、医療器具支援も進めています。東広島市とクチアン省との姉妹都市を計画しています。またネットでの小学校間の教育交流も考えています」(赤木さん・広島)「昨年度法人化しました。四つのプロジェクトを立て、古本を集め書架を整えることや文具を届けたり、里親支援活動などを行ってきました」(道下さん・時遊人)「ベトナムの大学図書館に日本関係のコナーを設けたいと本を集めています」(平松さん・埼玉)など各地の貴重な活動が報告されました。

総会終了後、「松浦正美副会長、細谷久美子会員の「平和・友好・民族」勲章授与と平松伴子会員『世界を動かした女性グエン・テイ・ビン』出版を慶び合う集い」が行われました。

村山富市会長は、昨年一〇月ハノイ遷都一〇〇〇年記念式典に向かう途上バイクの大渋滞に巻き込まれ参加できなかったエピソードにふれ「ベトナムは青年 未来の国です。日本とベトナムとの交流 信頼を深めることはアジアのために大切なことです」と挨拶されました。グエン・フー・ビン大使は、冒頭東日本大震災で被災

された方々への哀悼とお見舞いの意を示して「ベトナムの人は、困難を乗り越えて必ず復興することを確信しています。この間の日本からの支援に一つでも恩返ししよう」と全国規模で支援活動を行っています」と挨拶されました。

「集い」は、短時間でしたが明治大学に留学したオワさんにも交えて交流・親睦を深めました。



右下：挨拶されるグエン・フー・ビン大使

二〇一〇年度事業報告

【組織活動】

二〇一〇年度は、JVPF活動開始一〇年目を迎えることもあり、盛り沢山の活動が行われました。

- ①、二〇一〇年四月には、ベトナム南部解放・統一三五周年記念行事に招待を受け、村山富市会長、鎌田篤則副理事長が訪越しました。
 - ②、第三回総会に合わせて、二〇一〇年五月十九日に、JVPF一〇周年の集いを開催し、多くの参加いただきました。
 - ③、二〇一〇年一月にはハノイ遷都一〇〇〇年記念行事に村山会長を団長に訪問団を派遣しました。
 - ④、この間の友好活動に於いて、松浦正美副会長、細谷久美子会員がベトナム友好委員会連合（ホソン会長）より「平和・友好・民族」名称勲章を授与されました。
- また、JVPFは今年の四月、ホーチミン市友好委員会連合から「友好活動貢献・賞状」を授与されました。
- ⑤、JVPFの各県での組織結成を進めることにしましたが、埼玉県で準備会が作られました。
 - ⑥、会員は新規一二件（個人九、団体一、賛同個人一、賛同団体一）の参加を得ました。二〇一〇年度は都合一二〇会員となりました。
- 各県のJVPFとの関係整理が課題として残っています。
- ⑦、会報（ホアビンレポート）を二回発行、会員

連絡報を二回発行、常任理事会は三回持つてきました。

【事業】

1、教育支援事業（1）——少数民族出身高校生奨学金支援

ハタイ省バーヴィー県での奨学金事業は二〇〇九年度で終了し、二〇一〇年五月に最後の卒業生二〇人が巣立ちました。これまでの実績は延べ六三人を対象に実施されました。一期生二三人（二〇〇五年～二〇〇八年）、二期生二〇人（二〇〇六年～二〇〇九年）、三期生二〇人（二〇〇七年～二〇一〇年）

フット省では、NPOWオートービジョンを主管にして二〇〇八年から、一期一五人×三カ年を三期（二〇一〇年度開始）までの計画で進められてきましたが、二〇一一年度も継続することになりました。

二〇〇九年度開始されたクアンチ省（広島ベトナム平和友好協会が主管）、ニンビン省（財団法人・時遊人が主管）も二期が実施されました。

2、教育支援事業（2）——村山記念JVPF日本語学校

二〇一〇年度は、二〇〇七年開設時に開始した三カ年プロジェクトの終了年となり、二〇一〇年五月二三日、一期生の修了式を執り行いました。卒業生は三二人。今年も二期生の修了式が来る五月二六日に行われます。

一期修了生の二人が、今年の四月から日本留学しました。内、一名は村山日本語学校推薦。

現在、高校生クラス八三人、社会人クラス五〇人、教師五人、非専任二人、日本人教師一人。

三カ年を経て、自立的運営に至っておりませんでした。第三回総会で確認に基づき、次期三カ年計画を策定、継続して援助していくために「日本語修学高校生育英基金」を創設してきました。基金は目標額に未達ですので、今年も継続して呼び掛けていきます。

3、国際協力事業（1）——枯葉剤被害者支援キャンペーン

枯葉剤爆弾被害者追跡記録DVD『それでも私はいきてゆく』での上映キャンペーン活動を呼び掛け、二〇一〇年度中に、DVD上映活動が行われました。

また、英語のダイジェスト版も鈴木伊織さん、富山栄子さんの協力で制作され、日本以外への広がりを期待できます。

4、国際協力事業（2）——枯葉剤爆弾被害者への「自立支援プログラム」

タイピン省リハビリ施設との「自立支援作業場開設」の協議を行ってきましたが、廃品ビニール再利用「エビストラップ」の製作に始まった活動が、刺繍製品製作などへも広がり少しずつ形になってきており、購入援助してきました。

二〇一〇年度も、年間2回のJVPF慰問団派遣（二〇一〇年五月、十二月）、NPOWオートービジョンと共催でタイピンリハ施設を慰問（二〇一〇年八月）しました。

「自立支援プログラム」として、生産場設置の条件が整うハノイ北方バクニン省で、枯葉剤爆弾被害者を対象とした紙廃品による「ガーデニング・カップ」製作プロジェクトを検討するため、現地を視察（二〇一〇年八月）してきましたが、具体化のための資金調達の目途が立ちませんでした。

5、国際協力事業（3）——ベトナム民族アンサンブルチャリティコンサート

二〇一〇年度は西日本を中心に一五カ所で開催（有料二回）。年々、開催条件が厳しくなっていますが、この活動は「枯葉剤爆弾被害者支援キャンペーン」として大きな活動の柱になっています。

6、国際交流事業（1）——いけばなデモンストラーション

二〇一〇年一二月、いけばな作家・州村衛香さんの協力で三回目のデモンストラーション、ワークショップをハノイの博物館で開催。良好な反響を得て、継続した日越文化交流となっています。

7、国際交流事業（2）——村山記念JVPF日本語学校高校生夏季日本研修

学生六人、引率一名で二〇一〇年六月に実施。昨年度の引き続き「川越ベトナム平和と福祉のサポーターステーション」に協力いただきホームステイも実現しました。この日本研修は、日本語学校の高校生の日本語学習への手助けとして意義ある取り組みになりました。ちなみに一回目の研修生の内二人が、二〇一一年四月、日本留学となりました。

8、国際協力事業（4）——会員及び企業の交流支援事業及び事業展開への協力

①二〇一〇年一二月の「いけばなデモンストラーション」のベトナム側スポンサー・ピンミン社の「ハノイ農業プロジェクト」に協力してきました。同時に、二〇一〇年六月にはハノイ市共産党・日本農業視察団を受け入れ、村山会長との応接会談、藤沢市の表敬など行ってきました。

②団体会員企業・KANEMITSU社のハノイでのメンテナンズ事業展開に協力してきました。

③広島ベトナム平和友好協会のクアンチ省訪問団派遣（二〇一〇年一月）に協力してきました。

④大分人材育成・地域文化交流協会のアセアン女性会議参加（二〇一〇年一月）に協力してきました。

⑤長野ベトナム交流協会の友好訪問団（二〇一〇年一二月）の、ベトナム労働総同盟、ニンビン省友好委員会などの訪問に協力してきました。

⑥会員・平松伴子さんの『世界を動かした女性グエン・ティ・ビン』の発行に協力してきました。なお、平松さんからは印税をJVPFへ寄付する旨申し出がありました。

二〇一一年度事業計画

【組織活動】

二〇一一年度は、JVPF活動開始一年目となります。微々たる歴史ですが、期待が広がることも課題も山積してきました。身の丈に沿いながら、一つずつ進めていきたいと思います。

①、支部（あるいは友誼関係組織）づくりを促進し、ベトナム側の地方との友好関係あるいは縁組を進めていきます。

②、昨年からベトナム政府NGO委員会にJVPFは正式に登録されましたので、これまで以上にスムーズに進められると思います。

③、会員拡大をすすめる、基本的に会費をもってJVPFの運営ができるように展望していききたいと思います。

そのため、支部（あるいは友誼関係組織）結成促進との会員拡大にかかわる、二重会費の問題を整理していききたいと思います。

④、会報『ホアビン・レポート』年二回、『会員連絡』年二回を発行していきます。

【事業】

1、教育支援事業（1）——少数民族出身高校生奨学金支援

フウト省では、NPOウオータービジョンを主管にして第四期奨学金をすすめられますので、JVPFも呼び掛けてかけていきます。

クアンチ省、ニンビン省ではそれぞれに主管団体を窓口に進めていきます。

同時に、支部あるいは友誼関係組織のベトナム側地方との縁組をすすめる、それぞれに奨学金支援をすすめていくことにします。

2、教育支援事業（2）——村山記念JVPF日本語学校

昨年協議してきました、次期三カ年計画に基づく「日本語修学高校生育英基金」をもって支援を継続し、学校運営の自立を目指します。

また、基金が目標額に未達成ですので、継続して協力を呼び掛けていきます。

卒業生の日本留学のために支援を行っていきます。

3、国際協力事業（1）——枯葉剤被害者支援キャンペーン

枯葉剤爆弾被害者追跡記録DVD『それでも私はいきてゆく』での上映キャンペーン活動を継

2010年度 収支実績

I 経常収入の部	1、会費収入	725,000
	2、事業収入	3,409,412
	3、補助金収入	0
	4、寄附金	0
	5、借入金	0
	6、貸付金	13,523
	5、その他の収入	492,045
	経常収入合計	4,639,980
II 経常支出の部	1、事業費	3,317,744
	2、管理費	876,681
	3、未払い金	25,200
	4、借入金返済	138,848
	経常支出合計	4,358,473
	経常収支差額	281,507
III その他資金収入の部		0
	その他資金収入	0
IV その他資金支出の部		240,000
	予備費	0
	長期借入金	240,000
	当期収支差額	41,507
	前期繰越収支差額	206,871
	次期繰越収支差額	248,378



育英基金で日本語勉強中の高校1年生のクラス

続いていきます。

4、国際協力事業(2)——枯葉剤爆弾被害者「自立支援プログラム」

タイビン省リハビリ施設で、これまでの廃品ビン再利用「エビストラップ」製作を支援に加えて、刺繍絵製作支援を考えています。このため、日本各地の名所旧跡をモチーフにした刺繍絵製作・買取に協力していきます。

また、慰問団派遣、及びNPOウオータービジョンのノウハウを参考に「滞在ボランティア」を検討していきます。

5、国際協力事業(3)——ベトナム民族アンサンブルチャリティコンサート

二〇一一年度は東日本を中心に開催していきます。今年は、企画趣旨を変更し、「東日本地震被災者支援」として、ベトナム側が友好慰問する形をとります。

6、国際交流事業(1)——いけばなデモンスト

レーション

二〇一一年一二月、三回目を実施します。

同時に、頓挫している「いけばな教室」をハノイで開設できるよう関係者と協議していきます。

7、国際交流事業(2)——村山日本語学校高校生夏季日本研修

三回目となりますが、体験者が日本留学するなど一定の成果が上がっていますので、継続し計画していきます。

8、国際協力事業(4)——会員及び企業の交流支援事業及び事業展開への協力

昨年に引き続き、会員や友好企業などのベトナムとのつながりを手助けし、相互の発展のために役立つ活動を進めます。

JVPPF教育支援プログラム

日本語修学高校生育英基金が発足する

この間、JVPPF教育支援プログラムとして「少数民族出身高校生奨学金」支援を実施し、二〇一〇年五月、パウイ県少数民族高校でのプロジェクトが通年五カ年の事業が終了、総勢六三人の学生の支援が終了しました。現在、プウィット省(NPOウオータービジョン主管)、ニンビン省(NGO時遊人主管)、クアンチ省(広島ベトナム平和友好協会主管)がそれぞれ、同趣旨で実施中です。

JVPPF教育支援プログラムはまた、「日本語修学高校生」支援プログラムとして二〇〇七年九月から、ホーチミン市で日本語学校を開設してきました。

三カ年で自立運営を目指してきましたが、現在、日本語修学高校生への授業費援助相当資金の一部が不足している事態となっています。

ここに、三カ年に限定し、育英基金を、協賛として募集することに呼び掛けてきました。

第一期とついで、四〇七、〇〇〇円の基金が

作られました。

現在、村山JVPPF日本語学校は、高校生クラス八三人に育英基金による奨励を行っています。第一期(二〇一〇年九月～二〇一一年八月)は、基金から一、一七一、七五〇円の奨励金を村山JVPPF日本語学校に支出してきました。設立趣旨を維持するため、なんとか日本語修学希望学生の支援を継続したいと思っております。そのため有料の社会人クラスからの収入を基礎に収支バランスを整え正常な経営を目指しています。

今年の六月からは、これまでのレクインドン高校教室に加え、SOVILACO教室を開設し、昼間の学習希望者を受け入れるための条件を拡充する試みを始めました。

二期(二〇一一年九月～)、三期(二〇一二年九月～)への引き続きご協力をお願い致します。

激戦地ベトナム中部で枯葉剤爆弾被害事情を視察

（JVPF訪問団、クアンナム省を訪ねる）

細谷久美子

松浦正美副会長を団長にした訪問団は五月二五日、クアンナム省友好委員会および枯れ葉剤被害団体と会い枯れ葉剤爆弾被害の実情を見聞した。

会談では枯れ葉剤障害者団体の事務局長であり、災害部長であり、友好協会のスタッフでもあるシュエン（CHAU MINH SUYEN）氏から次のような概要が報告された。



クアンナム省ディン・パン・チュ副知事を表敬訪問

「枯れ葉剤の状況はお配りしたペーパーを参考にしてください。アメリカは一九七一年までの間に一九九〇五回、枯

れ葉剤を撒き、その中には八〇〇〇万リットルのダイオキシンを南ベトナムに落下させた。全国で四八〇万人が被害者となった。ここクアンナムの四分の三に一九六八年から六九年にかけて何回も投下した。一九九九年にクアンナムで調査した被害者は三〇〇万人いた。今はもつと増えているだろう。クアンナム省の三つの戦争の激しいところで八〇三八人に及ぶ」

「三つの県は山側、海側、山と海の間で、二〇〇八年に再度調査をしたら、一六二〇〇四人の二倍になっていた。その内二世代の人三八〇八八、三世代の人四〇七人で、二〇〇八年までの調査の結果、一八郡市で三五〇〇〇人になっていた」

「今の病気の状況は、多くはガンで働くことが出来ないでいる。また子供が生まれてもほとんど異常な子供たちである。例えば五人子供が生まれたら全員が異常である」

「まだ枯れ葉剤が残っている地域があり、戦争中に一番多く枯れ葉剤を落とされた地域は草だけしか生えない」

「三世代の調査は先ほどの三県だけで、その他は調査しきれないでいる。後、どこにすむことが出来るか調査をして許可を出すようにしている。クアンナムの三五〇〇〇人の調査を再度行うと多分倍になるだろう。クアンナムは三世代の発生が多いところ。働くことも出来ない、生



被害者家庭を慰問

活は苦しい。調査された人は貧乏な人た

「クアンナム省の人口は一五〇万人。三県の人口は山側一八二一八八人、海側二八一〇〇人、中間四〇八四八人」

「応援する組織は、政府、人民委員会などで生活を少しだけ楽にするための支援をした。郡レベルで一七箇所だけだった枯れ葉剤団体の支部が、村レベルでも一〇カ所になった。そこに参加する枯れ葉剤の被害者は一一五〇〇人いる。団体には政府が支援する企業を呼んで目的を伝え、産業連合などが募集をして五〇万ドル集めた。それは枯れ葉剤被害者の建物を直す資金にしたり、生活できない子に少し資金を出す。また仕事の訓練もする」

「団体の任務は、人数の公示、戦争の傷者も多いし、洪水などの天災も多い。国内だけではなく国外のサポーターにも応援するよう呼びかける」

「枯れ葉剤団体に今後援助して欲しい

ことは、建物をつくる。生活の資金を援助する。生活の世話をする。移動できる治療器具。リハビリの出来る施設」

「枯れ葉剤に対する国の補償金は、最高の戦争に直結していた人で、上は一カ月一七七万ドン、下は一カ月一七七万ドン。子供の場合は、上で七十七万ドン、下で四五万ドン。これらは三五〇〇〇人のうち四〇〇〇人だけしか受け取っていない。戦争の被害であると確認されない一般的な被害者は一カ月一七万ドンから二二万ドン」

「クアンナムにおける施設は、一般含めて労働省が管理しているが、一八のうち九カ所にはリハビリセンターがある。韓国とベトナムの退役兵士でクアンナム省に施設を作った。一回八〇人を募集している。しかし、ここにはリハビリ用の治療危機がない」

【シュエン会長の報告】

クアンナムの省都はタンキ（TAM KY）と言う。この人口は五〇〇〇人だが障害者に登録されている人員は六一四人で、家庭訪問した二家庭でも登録されていないところもあった。

シュエンさんのところはご夫婦で枯れ葉剤を受けているというのを聞き、直



細谷さんとシュエン会長

接、ご本人にお話を聞く。

シユエンさんは夫婦で戦争時の軍隊で
ゲリラであった。政府からの補償金は一
カ月二〇万ドン受け取っている。クア
ンナムの西方に一九六四年から一九六五
年にかけて、アメリカ軍はヘリコプター
で枯れ葉剤を撒いた。枯れ葉剤による病
気は「糖尿病」「神経障害」があり、痛くて、
病院へ行つて治療し薬を飲んだ。「糖尿病」
に関連して血圧が高くなり、心臓の鼓動
が早くなる。毎日、病院に行く。自分は普
通の人よりお金があるので病院へ行ける。

妻も枯れ葉剤を受けた。今、一カ月一
二〇万ドンを政府から受け取っている。
自分は二〇一〇年六月からだが妻は二〇
一〇年の一二月から受け取れるように
なった。それまではタンキ市の主席をし
ていたこともあり政府からの補償は受け
ていなかった。

アメリカに対する気持ちは、枯れ葉剤
を投下したアメリカの責任は重い。アメ
リカに対してベトナムの要求をきちんと
したほうがいい。補償されていない人た
ちに対する援助をこれからも続くことを
願う。

私が聞き取りをしていたお相手は、二
〇一〇年六月まで、クアンナム省タンキ
市の主席を担っていた人であった。しか
し本当に丁寧にお話しくださり感謝の一
言である。

その前に、二か所の枯葉剤被害家庭を
慰問。最後に、クアンナム省政府に副主
席を表彰し、クアンナム省を後にした。

プーフト省少数民族

高等学校奨学生

初めての卒業

五月三日、ハノイから二時間三〇分
かけて、一〇時三〇分にはプーフト省の
学校へ着きました。早々に、式の会場に
入りセレモニイが始まりました。

最初は、学生たちがムン族の踊りを披
露。着物も勿論ムン族のものです。ここ
はムン族の人が多いとのこと。



卒業を迎えた奨学生と



ホアさんに報奨金を渡す松浦副会長

音楽を演奏するグループは、ザオ族、
ムン族、カラフン族とプーフト省に集
まっている民族の人々です。

フ副校長からは、プーフト省の優秀学
生の名前を読み上げられました。

ミー校長の講評の後、ベトナム式の儀
式で『旅立ちの太鼓』が打ち鳴らされま
した。

卒業生の Nguyen Thi Hoaさんが三
年生の二〇人、そして奨学生四五人を
代表して御礼の挨拶しました。

「参加した皆さんを代表してJVPFの
人たちに感謝を申し上げます。これから
も勉強している学生に援助を続けていた
だけなら、もっと頑張れる力になる。私
たちはこの学校を卒業することとなるが、
残っている学生は先生方の下で頑張つて
勉強して欲しい」

JVPF松浦副会長が来費として挨拶
し、最優秀学生の Hoaさんに報奨金(二
〇〇ドル)を手渡しました。

式終了後、別室で卒業奨学生一五人と
の交流が行われ、JVPFからの記念品

やサポーターからのお土産が渡されまし
た。そして、三年間の想い出や、これか
ら進路について一人ひとりに聞いていき
ました。一五人が、全員進学を希望し、
夢を語ってくれました。
これらを聞いて松浦副会長は「少しの
お金だが支援できて本当によかった」と
シミジミ話されていました。

村山記念JVPF

日本語学校第二期生修了式

第二期生(二〇〇八年九月入学)の修
了式は、教室でおこなわれ、在校生、父
母含めて満席状態でした。
トアン副校長の開会宣言で式が開会さ



第二期修了生18人

明治大学で、頑張っています。

私の名前は CHAU HUYNH NGUYEN OANH と言います。ベトナムの出身です。3年前から、私は村山富市記念 JVPF 日本語学校で日本語を勉強してきました。私は村山



日本語学校の学生でした。今私は明治大学の国際日本学部の一年生で、日本の文化とか日本の経済について勉強しています。日本語も専門もまだまだなので、一生懸命勉強しています。

日本にきてから、色々な場所へいったりして、とても勉強になりました。今私は平松伴子さんのお家に住んでいます。ホームステイすることはとても面白いです。たくさんことを経験してきました。例えば、習慣の違いです。JVPFの皆さんに色々なお世話になっているので、私は頑張っています。

CHAU HUYNH NGUYEN OANH



はじめて日本式の修了式を行った。名前を読み上げるルオン校長

れ、式の先立ち JVPF 選抜アンサンブル『桃花芸術団』の素晴らしい歌と演奏が披露されました。

ルオン校長が以下のように在学中の講評を行いました。

「昨年の二〇一〇年は卒業した三年生三五人のうち、一人は明治大学に留学し、もう一人が大分の APU に留学しました。二〇〇九年夏、二〇一〇年夏、一五人が夏期日本研修交流をしてきました。

今回の修了生は、昼間は高校で学び、夜はこの日本語学校で学ぶことが出来ました。ご両親の努力に感謝申し上げます。卒業する一八人の学生は、日本の知識を生かして日本とベトナムの役に立つ人材になって欲しいと思う。学生諸君、あなたたちの人生は、今始まったばかりです。『今から何かを始めよう』と呼びか

立命館アジア太平洋大学に留学しました。

こんにちは、私は Nguyen Thi Thuy Tien と申します。一年前、私は村山の日本語学校を卒業しました。村山学校の学生の時、日本語をたくさん勉強しました。村山学校の先生たちのおかげで、今、日本に、別府で、勉強することができました。今、立命館アジア太平洋大学の学生です。英語で勉強していますが、日本語も毎日勉強して、日本人と話しています。大学には外国人と日本人が多いです。アメリカとかアフリカから、みんなが日本語をいっしょに勉強して、話していますから、とても楽しいです。私も日本人の友達がたくさんいます。ときどき、国の料理をいっしょに作ります。日本人はとても親切だと思います。日本の生活は安全ですから、日本が大好きです。はじめて日本語を話す時、ちょっと心配になって、何も話せませんでした。今、大丈夫です。バスの乗り方も分かりました。今年八月から、日本人の家族と私の先輩いっしょに住むつもりです。楽しそうです。もうちょっと日本語を練習することができます。

わたしの今があるのは、先生たちのおかげです。村山様、どうもありがとうございました。鎌田先生、どうもありがとうございました。Tung 先生と Luan 先生、どうもありがとうございました。先生と在校生のご健康を祈念し、学校の伝統が次の学生たちに引き継がれることを希望しています。

Nguyen Thi Thuy Tien



大分で村山会長、佐藤副会長も歓迎。Tienさんは後方中央

「けす」
そして、今回から、日本式で一八人一人ひとりに対して賞状が与えられました。その後、修了生二人から、ベトナム語と日本語で三年間の思い出が語られました。

——三年間ここで勉強させてもらい大変楽しく、面白かった。先生たちのご努力に感謝を申し上げます。日本の学生とも友達になれて大変楽しかった。日本の文化・習慣を学ぶのによい機会となりました。日本は地震と津波で多くの人が犠牲になったことに心からお悔やみ申し上げます。奨学金を下された村山 JVPF 日本語学校の先生方、大変お世話になり、ありがとうございます。——
在校の一年生二人からは贈る言葉がありました。

この後、参加した全員で『一五歳のあなたへ』を日本語で合唱し、鎌田理事長の閉会挨拶で終了しました。

ベトナムで練り広げられた 東日本震災支援

ベトナムでは、政府が初めてのこと
というほどに、草の根で国民的な運動と
して、支援が練り広げられました。J
VPF訪問団がハノイを訪れた五月二四
日、ハノイ市友好委員会連合は、会員企
業の賛同を募り、二二万円の支援金をJ
VPFへ託しました。当日の授与式には
在ハノイ日本国大使館から広報文化班の
高橋順一氏も列席されました。
JVPFは、この支援金とベトナムの
人々の気持ちを直接被災者に届けること
を約束しました。



ハノイ市友好委員会ハイ副会長と協賛企業関係者

枯葉剤爆弾被害者支援と、 東日本大地震被災者支援で 2011コンサートを準備中です。

ベトナムから民間大使（アンサンブル）が 被災地を慰問します。

16年目を迎える今年のベトナム民族サンサンブルチャ
リティコンサートは、これまでのベトナムへの友情の手
を、ベトナムから友情の手を日本の被災者に届けるチャ
リティコンサートにすることになりました。

- 今回の東北地方太平洋沖地震の被災にあたって、これ
まで海外との友好・交流の活動してきましたIFCC
国際友好文化センター、日本ベトナム平和友好連絡会
議（JVPF）には、多くのお悔やみと激励が海外か
ら寄せられました。
- IFCCとJVPFは、通算16年目となる『ベトナム・
枯葉剤爆弾被害者支援／自立支援プログラム』のチャ
リティコンサートについて、関係団体、機関と協議し、
継続開催することが日常復帰への活動に繋がっていく
との意味から、2011年度10月に予定しているベトナム
アンサンブルコンサートについて取り組んでいくこと
とし、その企画内容を「東北地方太平洋沖地震被災・
復興支援」を付加し開催することに致しました。
- ベトナム側の友好委員会連合、及び日越友好協会など
から、「これまでの枯葉剤爆弾被害者支援を感謝し、今
回は日本国内の支援に充ててほしい」との申し出をい
ただきました。来日予定のアンサンブルメンバーも、
日本での演奏、演舞を思い新たに希望しています。

ベトナムで『一杯のフォ運動』を計画中です。

フォとはベトナムの米粉で作ったうどんです。1杯、3万
ドン（100円ほど）程度で、ベトナム人は毎日といってよ
いほど口にしている食べ物です。一杯を、被災地に届けよ
うという運動で、高校生が中心となり進める予定です。

また、ホーチミン市の村山記念日本語学校の学生たち
から、見舞いのカードが届けられてきました。

この気持ちを、アンサンブルメンバーが民間大使とし
て被災地に届ける予定です。

コンサートの開催数が不足しています。 ご協力下さい。

今年は、3月11日から諸準備が滞り、開催地確定が遅々
として進んでおりません。しかし、ベトナムの気持ちを
届けるため、そしてこの運動を途切れにようにするため、
ご協力をお願いします。

期日：2011年10月12日～10月26日 会場確定優先で
日程調整しています。

掲示板

- 一、村山JVPF日本語学校の二〇一一年
度夏期日本研修は東広島で実施予定でし
たが、学校側の事情で中止となりました。
- 二、「子どもを水難事故から守るための水泳
訓練指導」ボランティアで、元水泳オリ
ンピック選手で俳優の藤本隆宏さんが、
七月一四日、一五日、ビンフック省を訪
れます。
- 三、中部の枯葉剤爆弾被災支援でクアンナ
ム省訪問団が七月三一日から実施されま
す。呼びかけは、平松伴子さん、吉村玲
子さん。
なお、同訪問団は、ハノイ貿易大学の図
書館に日本の図書を寄贈予定です。
- 四、タイビン・ボランティア参加者募集
枯葉剤爆弾被災者リハビリ施設で、恒例
の滞在ボランティアを実施します。ツア
ー期間は八月二〇日（土）～二四日（水）。
五、日本語修学高校生育英基金 第二期（二
〇一一年九月～二〇一二年八月）の協賛
金の募集を開始します。
- 六、広島ベトナム平和友好協会はクアン
チ省少数民族高校生奨学金支援で二月
に訪問団派遣予定です。
- 七、いけばなデモンストレーション二〇一
一が、今年の二二月、ハノイで準備され
ます。
- 八、プワイト省少数民族高校生奨学金のた
め、NPOウオータービジョンは二二月
に訪問団を準備中です。